

株式会社ラクト・ジャパン

銘柄コード:3139

2024年11月期 第2四半期

2023年12月1日 ▶ 2024年5月31日

## Contents

|                              |   |
|------------------------------|---|
| 社長メッセージ .....                | 2 |
| 部門別事業概況 .....                | 3 |
| 業績ハイライト .....                | 3 |
| 特集「この人がいる、Lacto Japan」 ..... | 4 |
| 事業紹介 .....                   | 5 |
| 統合報告書発行のお知らせ .....           | 6 |
| ラクト・ジャパンの情報開示 .....          | 6 |
| 株主メモ .....                   | 6 |



# 社長メッセージ

## 厳しい事業環境から一転、 風向きが大きく変化

長期ビジョン「LACTO VISION 2032」の実現に向けた3か年の中期経営計画「NEXT-LJ 2025」が2年目を迎えました。初年度となる2023年11月期（以下、前期）については、大変厳しい事業環境下での事業運営を迫られ、不本意な1年であったと言わざるを得ませんが、2年目に入り、風向きが大きく変わっています。

まず、2024年11月期第2四半期連結累計期間（以下、当第2四半期）の国内事業では、最終製品の値上げの影響で販売が伸び悩む原料があったものの、業務用需要の回復により輸入原料への引き合いが増加したことや、市場拡大が顕著なプロテイン製品に関連した原料販売が順調に進んだことなどから、販売数量が増加し、売上高は想定を上回る結果となりました。また、コロナ禍以降、酪農・乳業界で課題になっていた国産脱脂粉乳の過剰在庫は調整が進み、落ち着いた展開となっています。利益面では、主に国内の乳原料・チーズ部門において利益率の高い商品の販売数量が増加したことや、アジア事業における乳原料販売部門・チーズ製造販売部門の利益率がともに前期比で改善したことから、連結利益は予想を大幅に上回る結果となりました。

以上の結果、当第2四半期は売上高が845億60百万円（前年同四半期比5.1%増）となり、経常利益は22億60百万

円（同68.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は16億54百万円（同79.3%増）といずれも第2四半期としては過去最高の業績となりました。

## 「量から価値」を追求し、 「複合型食品企業」への進化を加速

私は、2017年に社長に就任して以来、IR活動に力を入れ、株主・投資家の皆さまとの対話を大切にしてきました。そのなかで、とりわけ時間を割いてきたのが、当社が属する酪農・乳業界の実態や特殊性などに関する説明です。なぜなら、酪農や乳業は専門性が高く、事業環境に左右されやすい産業であり、その前提をご理解いただかなければ、当社のビジネスへのご理解を得ることができないと考えたからです。実際、コロナ禍前は、酪農・乳業界を取り巻く事業環境が追い風となり、当社の業績が好調に推移した一方で、コロナ禍以降は逆風に晒され、とくに前期については30年ぶりといわれるインフレの波に抗えず、業績が悪化しました。しかし、その間に、組織改革や社員の意識改革に加え、シンガポールの新工場建設の準備に取り組むなど、将来の成長に向けた基盤固めを着実に進めてきました。冒頭で申し上げたとおり、風向きが大きく変わるなかで、これらの取組みを踏み台として、追い風に乗り、長期ビジョンの達成に向けて事業成長に弾みをつけていきたいと思っています。

さらに、事業環境に左右されない、より強靱で柔軟性の高い事業ポートフォリオを構築すべく、「量から価値」をキーワードに、機能性食品原料をはじめとした高付加価値商品に注力するとともに、ビジネスの効率性を追求し、食品専門商社の枠にとどまらない「複合型食品企業」への進化を加速していきます。これからも当社は皆さまの健康と豊かな生活に持続的に貢献し、社会にとって欠くことのできない存在となるべく邁進してまいりますので、株主の皆さまにおかれましては、さらなるご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

株式会社ラクト・ジャパン  
代表取締役社長

三浦元久



## 部門別事業概況

### アジア 事業・ その他

グローバルで調達した乳製品原料をアジア地域で販売するとともに、自社ブランドのチーズの製造販売も行っています。

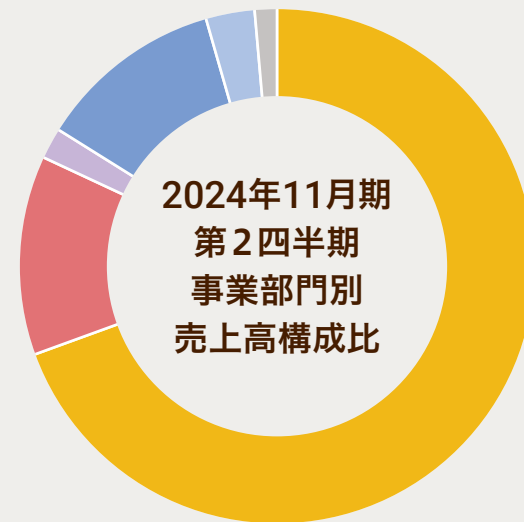
売上高  
**134億79**百万円  
前年同四半期比  
**3.1%増**

#### アジア事業（乳原料販売部門）

売上高構成比  
**11.5%**  
販売数量  
**18,518**トン  
前年同四半期比  
**12.2%減**  
売上高  
**97億31**百万円  
前年同四半期比  
**7.9%減**

#### アジア事業（チーズ製造販売部門）

売上高構成比  
**3.2%**  
販売数量  
**2,536**トン  
前年同四半期比  
**7.1%増**  
売上高  
**26億79**百万円  
前年同四半期比  
**19.3%増**



### 機能性 食品原料 部門

乳由来の高たんぱく原料をはじめとした機能性が訴求できる商品をスポーツニュートリション業界、食品業界などへ販売しています。

売上高構成比  
**1.9%**  
販売数量  
**1,267**トン  
前年同四半期比  
**12.0%増**  
売上高  
**16億8**百万円  
前年同四半期比  
**1.4%増**

### 乳原料・ チーズ部門

海外から安全な乳原料やチーズを仕入れ、日本国内の乳業・菓子などの食品、飲料、飼料メーカーなどに販売しています。

売上高構成比  
**69.7%**  
販売数量  
**91,099**トン  
前年同四半期比  
**6.8%増**  
売上高  
**589億32**百万円  
前年同四半期比  
**3.8%増**

### 食肉食材 部門

海外から豚肉および食肉加工品を仕入れ、国内の食品メーカー、卸売会社などへ販売しています。

売上高構成比  
**12.5%**  
販売数量  
**15,843**トン  
前年同四半期比  
**14.2%増**  
売上高  
**105億38**百万円  
前年同四半期比  
**17.1%増**

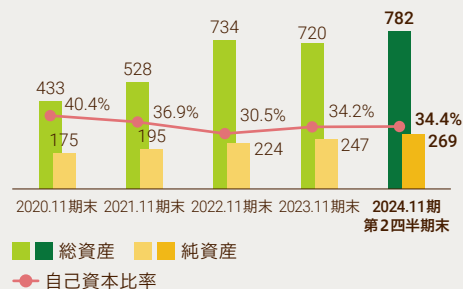
(注) 売上高、販売数量ともに数値の表示は端数切捨て、増減率は四捨五入しています。売上高構成比の数値は小数第二位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

## 業績ハイライト

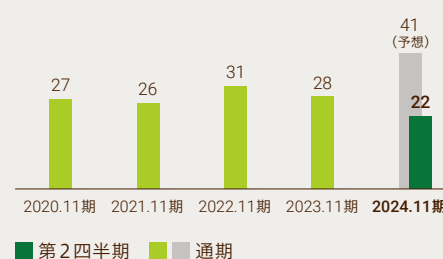
### 売上高 (億円)



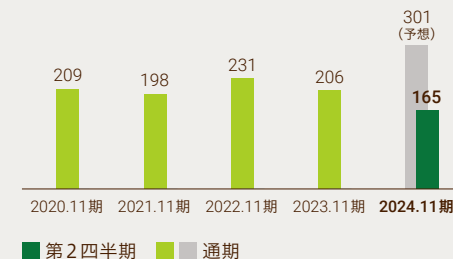
### 総資産・純資産・自己資本比率 (億円)



### 経常利益 (億円)



### 1株当たり当期純利益 (円)



## 付加価値を具現化する提案を

**大越** 事業開発本部では、プロテインをはじめとした機能性食品原料を国内で販売しています。私は営業担当として、お客さまが取り扱うプロテイン製品に適した原料の提案を行っており、商品コンセプトの設計からサポートしています。ヒアリングを重ね、お客さま自身が製品を通じて提供したい付加価値を深く理解し、それを具現化するためにどのような原料を取り入れるべきかを、市場データなども活用しながら、さまざまな角度から提案するよう心がけています。

**鈴木** 私は、大越をはじめとしたチームのメンバーが提案した原料をもとに、プロテイン製品のレシピ開発を担当しています。「さらに飲みやすい口当たりにしたい」「おいしさで差別化を図りたい」といったお客さまのご要望をもとにレシピを考案し、商品化に向けて試作を重ねることで、原料を販売するだけでは解決できないお客さまのニーズにお応えしています。

**大越** 鈴木が事業開発本部に加わり、レシピ開発が可能になったことで、提案の幅が大きく広がりました。それにより、お客さまとの関係性強化にもつながっています。

## 市場開拓に挑戦する

**鈴木** 機能性食品原料は、スポーツ業界や美容業界など、幅広い分野の商品で活用されています。そのため、初めてお取引させていただく業界のお客さまも多く、手探りのなかでレシピ開発をスタートせざるを得ないこともあります。



## 第2回 大越 俊行 & 鈴木 大介

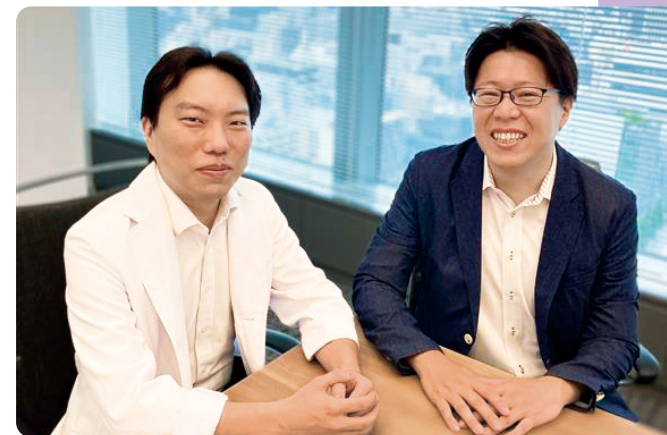
### 世界中で活躍する

ラクト・ジャパンの社員を連載でご紹介します。

第2回は、ラクト・ジャパンの新領域への挑戦をリードする事業開発本部の二人に話を聞きました。

明確なビジョンを描けないままレシピ開発を行うことは簡単ではなく、この仕事の難しさを感じるどころです。だからこそ、お客さまに喜んでいただけるレシピに仕上げるのができたときの達成感は格別ですね。

**大越** 幅広い業界に対して、私たちの商材をどうアレンジすると付加価値を生み出せるかを、お客さまと一緒に考えながらカタチにしていけることに、チームとしても個人としても大きなやりがいを感じています。新しいニーズやビジネスを予測し、専門商社という枠にとらわれず、市場開拓に挑戦する意欲を持ち続けること。それが、ラクト・ジャパンが「複合型食品企業」を目指すエンジンとして設置した事業開発本部にいる私たちの使命だと思っています。



(右) **大越 俊行** 事業開発本部 機能性食品原料チームリーダー  
(左) **鈴木 大介** 事業開発本部 機能性食品原料チーム

## ラクト・ジャパンだからこそできることを

**大越** 現在は幅広い種類の機能性食品原料を取り扱っていること自体が強みですが、今後はラクト・ジャパンだからこそ提供できる付加価値の高い機能性食品原料の取扱いも確立したいですね。例えば、近年、海外仕入先も健康面で付加価値の高い乳製品に着目し、それに合った機能性食品原料の開発に力を入れ始めています。まずはそういった原料を日本に広めるところから始めていきたいと思っています。

**鈴木** ラクト・ジャパンは、国内の乳製品販売で大きなシェアを有しており、それに伴い培ってきた知見・ノウハウが豊富にあります。それらを生かすことで、ラクト・ジャパンだからこそできることを、どんどん増やしていけるといいですね。私自身も、レシピ開発における提案の幅を広げられるよう、研鑽を続けていきます。

## 事業紹介

# ラクト・ジャパンのソリューション 新領域への挑戦と レシピ開発で図る差別化

### 新領域への挑戦

2020年4月に設立された事業開発本部 機能性食品原料チームは、乳由来の高たんぱく原料(ホエイプロテイン)をはじめとした機能性食品原料の国内販売を行っています。現在日本に流通しているホエイプロテインは100%が輸入品で、市場価格も流動的です。そのような状況下でも、乳製品の専門商社であるラクト・ジャパンは既存事業で培った強固な調達網を生かし、さまざまな種類の原料を安定して供給することができます。

機能性食品原料チームには、プロテインやコラーゲン、プラントベースフード原料など、各原料の専門知識に富んだ人材が在籍しています。そのため、ホエイプロテインを中心に高い付加価値のある原料の提案が可能です。例えば、酸に反応してもダマにならず、スポーツ飲料のような味を楽しむ「すっきりプロテイン」は、担当者の専門性とラクト・ジャパンの調達網があったからこそ実現できたレシピです。

### スピード感を持ったレシピ開発

レシピ開発では、スピード感を大切にしています。通常、試作品に対するお客さまからのフィードバックをもとにした改良には、1週間程度のお時間をいただいておりますが、時には、お客さまに当社までお越しいただき、フィードバックと改良を重ね、その日のうちに味を決定することもあります。味の記憶は時間が経つとどうしても薄れてしまうことから、お客さまの求める味にできる限り近づけられるよう、丁寧かつスピード感のあるご提案を大切にしています。



健康な体の基礎づくり“プロテイン”をおいしく、効率よく！

プロテインをより飲みやすく。  
すっきりプロテインで、毎日おいしくたんぱく質を摂りませんか？



## 乳たんぱく質って？



たんぱく質は、骨や筋肉など、私たちの身体のあらゆる組織をつくったり、身体の機能を調整するホルモンや酵素、免疫細胞などの材料にもなる、生命活動の維持に重要な役割を果たす栄養素です。牛乳・乳製品に含まれるたんぱく質を指す「乳たんぱく質」は、他の食材に含まれるたんぱく質と比べて、その栄養価の高さと消化の良さに大きな特徴を持ちます。たんぱく質をおいしく適切に摂取し、健康的な身体をつくりましょう。



乳たんぱく質の  
詳しい情報はこちらから  
一般社団法人  
Jミルク発行  
「ファクトブック  
乳たんぱく質のすべて」



## 統合報告書発行のお知らせ

今般、当社としては第2号となる統合報告書「INTEGRATED REPORT 2024」を発行しました。

当社グループの持続的な成長に向けた3か年の中期経営計画、10年後の長期ビジョン、価値創造基盤のほか、培ってきた強みやサステナビリティ活動に関する考え方などをまとめています。本報告書を通じて、成長を目指す当社の意思や取組みの方向性をステークホルダーの皆さまへしっかりと伝えたいと考えています。



「統合報告書」(2024年8月発行)

<https://www.lactojapan.com/ja/ir/library/integrated.html>



## ラクト・ジャパンの情報開示

ステークホルダーの皆さまへ当社の情報をタイムリーにわかりやすくお届けするため、ホームページでの情報開示に注力しています。より詳細なIR情報は、当社ホームページからご確認いただけます。



「株主・投資家情報」

<https://www.lactojapan.com/ja/ir.html>



「ラクト・ジャパンとは」

<https://www.lactojapan.com/ja/ir/about/about-1.html>



「最新決算のポイント」

<https://www.lactojapan.com/ja/ir/finance/point.html>



## 株主メモ

事業年度 12月1日から翌年11月30日まで

基準日 11月30日  
そのほか必要がある場合は、あらかじめ公示いたします。

単元株式数 100株

株主名簿管理人  
および特別口座の  
口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

〒100-8233  
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
TEL 0120-782-031 (フリーダイヤル)

- 株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三井住友信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記の特別口座の口座管理機関（三井住友信託銀行）にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。



〒103-0027  
東京都中央区日本橋二丁目11番2号  
太陽生命日本橋ビル22F